

# 病害虫防除指導報

No.355

令和6年4月号

発行

秋田県農業共済組合  
中央支所

## 1. 移植時のいもち病防除について

### 本田のいもち病防除

いもち病の本田防除剤には育苗箱施用剤、側条施用剤、水面施用剤があるのでいずれかを選択して下さい。

#### ①【育苗箱施用剤】

農薬名	薬の種類	使用時期	箱当たり散布量 [散布液量]
アプライ箱粒剤	チアジニル粒剤	床土混和又は播種時 (覆土前)	50g
ファーストオリゼ箱粒剤	プロベナゾール粒剤		25～50g
ブーン箱粒剤	ジクロベンチアゾクス粒剤	床土混和又は播種時 (覆土前)～移植当日	50g
ルーチン粒剤	イソチアニル粒剤		25～50g
ブイゲット箱粒剤	チアジニル粒剤	緑化期～移植当日	50g
デジタルコラトップ箱粒剤	ピロキロン粒剤	移植3日前～移植当日	50g
ルーチンフロアブル	イソチアニル水和剤		100倍液 [500mL]
Dr.オリゼ箱粒剤	プロベナゾール粒剤		25～50g

### 育苗箱施用剤による防除の注意点

- ア. ポット用育苗箱では使用しないで下さい。
- イ. 箱当たり散布量が25gとして使用可能なのは、10a当たりの使用育苗箱が20箱以上の場合です。
- ウ. 高密度播種は、育苗箱(30×60×3cm、使用土壌約5L)1箱当りに乾糞として200～300g程度播種する場合とし、薬剤の処理時期は移植3日前～移植当日として下さい。
- エ. 復元田等では土壌の窒素供給量が多くなり、稲体のいもち病に対する抵抗性が低下するおそれがあります。このような場合での箱当たり散布量は50gにして下さい。
- オ. アプライ箱粒剤、ファーストオリゼ箱粒剤、ブーン箱粒剤又はルーチン粒剤はベンレート水和剤と播種時に同時に利用できます。

#### ②【側条施用剤】

農薬名	農薬の種類	使用時期	散布量	備考
オリゼメート顆粒水和剤	プロベナゾール水和剤	移植時	250g/10a	ペースト肥料用
側条オリゼメートフェルテラ顆粒水和剤	クロラントラニリプロール・プロベナゾール水和剤		500g/10a	
側条オリゼメートリディア顆粒水和剤	フルピリミン・プロベナゾール水和剤		100g/10a	
ツインターボ顆粒水和剤	クロチアニジン・イソチアニル水和剤		20～50kg/10a	粒状肥料
コープガードD12	プロベナゾール複合肥料		40～50kg/10a	
コープガードW12	イミダクロプリド・プロベナゾール複合肥料		1kg/10a	
コープガードD一発664	プロベナゾール複合肥料			
オリゼメート粒剤20	プロベナゾール粒剤			移植同時施薬機を用いて側条施用して下さい。
スタウトダントツ箱粒剤	クロチアニジン・イソチアニル粒剤			

スタウトパディート箱粒剤 ルーチンデュオ箱粒剤 ルーチンパンチ箱粒剤	シアントラニリプロール・イソチアニル粒剤	移植時	1kg/10a	移植同時施薬機を用いて側条施用して下さい。
デジタルミネクト箱粒剤	シアントラニリプロール・ピロキロン粒剤			
箱大臣粒剤	クロチアニジン・イソチアニル・フラメトピル粒剤			
ブーンパディート箱粒剤	シアントラニリプロール・ジクロベンチアゾクス粒剤			
Dr.オリゼパディート粒剤	シアントラニリプロール・プロベナゾール粒剤			
Dr.オリゼフェルテラ粒剤	クロラントラニリプロール・プロベナゾール粒剤			
Dr.オリゼリディア粒剤	フルピリミン・プロベナゾール粒剤			

### 側条施用剤による防除の注意点

- ア. ペースト肥料用側条施用剤は、ペースト肥料との混和が悪いと効果が劣るので、別容器(タンク等)に肥料と農薬(同重量の水に溶かしてから)を入れて十分攪拌してから使用して下さい。調合は移植当日に行い、調合したものはその日のうちに使用して下さい。施肥深度が3～7cmの側条施用又は2段施用で使用して下さい。移植の際、土壌が硬く、施肥溝がふさがらない時は防除効果の劣る場合があります。
- イ. スタウトダントツ箱粒剤、スタウトパディート箱粒剤/ルーチンデュオ箱粒剤/ルーチンパンチ箱粒剤及び箱大臣粒剤は推奨しない施薬機があるので使用前に確認して下さい。

#### ③【水面施用剤】

農薬名	農薬の種類	散布時期	散布量
オリゼメート粒剤	プロベナゾール粒剤	6月15日頃(6/12～18)	2kg/10a
ルーチン粒剤	イソチアニル粒剤		1kg/10a

### 水面施用剤による防除の注意点

- ア. 湛水状態で田面に均一に散布し、散布後4～5日間は水を入れしないで下さい。また、周辺環境に配慮し、散布後7日間は落水、かけ流しはしないで下さい。
- イ. かけ流し田では効果が低下します。

### その他の留意点

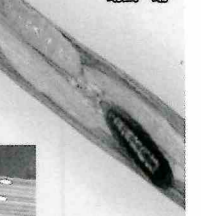
- ア. 育苗期間に1個でも病斑が認められた場合は、同一育苗施設の苗は移植しないで下さい。
- イ. 余り苗は発病しやすく伝染源になりやすいので、放置せず直ちに泥に埋めて処分して下さい。
- ウ. 密植は発病を助長するため、適正な栽植密度として下さい。

## 2. 水稲初中期害虫の防除について

### イネミギワバエ(イネヒメハモグリバエ)の防除

主に老熟幼虫、一部は蛹で越冬し、羽化した成虫が移植後の稲に産卵します。産卵は水面に垂れて浮かんだ葉に多く行われるので、深植えや移植後の深水は産卵を誘発します。被害は沿岸部で多い傾向があり、5月下旬～6月上旬に急激に現れるため、防除が手遅れになりやすいので注意して下さい。前年被害が大きかった場合は、裏面の【表】の育苗箱施用剤で防除して下さい。育苗箱施用剤を使用しなかった場合で産卵数が多い時は、茎葉散布剤や水面施用剤で防除を行って下さい。

幼虫・卵



イネミギワバエ(イネヒメハモグリバエ)



ヒメハモの成虫と卵

### イネミズゾウムシ・イネドロオイムシ(イネクビボソハムシ)の防除

イネミズゾウムシは山林や畦畔等で越冬し、移植後に水田に侵入します。畦畔沿いに食害が多く、食害が激しい場合は生育が抑えられて減収します。育苗箱施用剤、育苗箱かん注剤、側条施用剤による防除は前年6月の食害株率が90%以上となった場合に行ってください。また、水面施用剤による防除は6月上旬に越冬後成虫が0.3頭/株(食害株率90%以上に相当)以上の場合に行ってください。

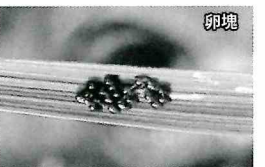
イネドロオイムシは早植えや生育がよい水田で産卵が多く、山間、山沿地や風当たりが少ない水田で被害が大きくなります。6月上～中旬に1株当たりの卵塊数が0.5を超える場合は茎葉散布剤で防除を行って下さい。



イネミズゾウムシ



成虫



イネドロオイムシ(イネクビボソハムシ)

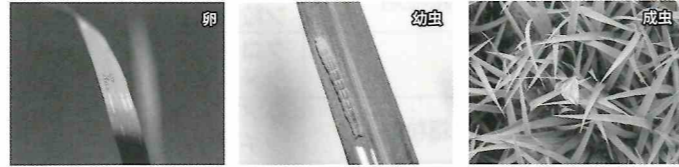


### イネキモグリバエ(イネカラバエ)の防除

山沿いや山間地での発生が多い傾向があります。本種はイネ科雑草の茎の中で越冬するため、6月上旬までに畦畔の除草を行って下さい。被害が心配される地域やほ場では、グランドオンコル粒剤50g/箱を移植当日に処理するか、リディア箱粒剤50g/箱を移植3日前～移植当日に処理し防除を行って下さい。

### フタオビコヤガ(イネアオムシ)の防除

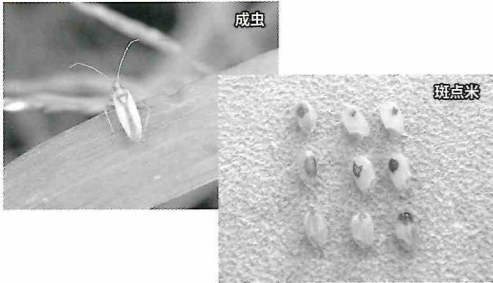
多肥田や葉色の濃い水田で発生が多くなる傾向があるので注意して下さい。第2、第3世代幼虫による被害が局所的に多発することがあります。前年多発したほ場では育苗箱施用による防除を選択して下さい。



フタオビコヤガ(イネアオムシ)

### 斑点米カメムシ類(アカスジカスミカメ)対策の水田内除草について

本県の主要な加害種はアカスジカスミカメです。水田内にイヌホタルイ、シズイ等のカヤツリグサ科雑草やノビエ類が多発するとアカスジカスミカメの水田内への侵入を助長します。そのため、水稲除草剤の適正使用により水田内の除草を徹底して下さい。一発処理剤は代かき日から10日以内に使用(ただし、ラベルに記載された使用時期に従うこと)し、散布時は田面の高いところでも水深5cmを確保して下さい。



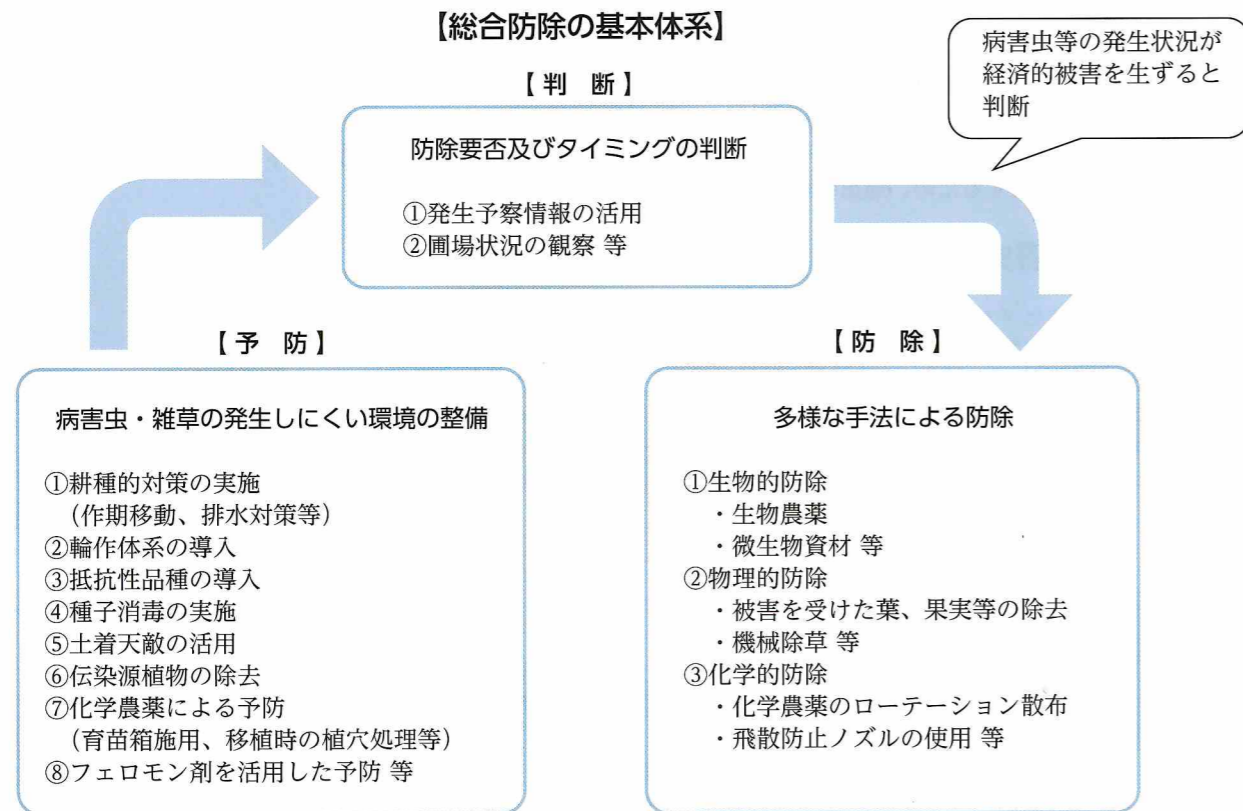
斑点米カメムシ類(アカスジカスミカメ)

## 3. 総合防除について(総合防除の基本体系について)

「総合防除」とは、病害虫の防除を化学合成農薬のみに頼るのではなく、天敵やフェロモンを利用した生物的防除や粘着板を利用した物理的防除等を組み合わせ、環境への負荷を低減しつつ、病害虫の発生を経済的な被害が生じるレベル以下に抑制する防除体系です。

その内容は、①予防(病害虫・雑草の発生しにくい環境の整備)、②判断(防除要否及びタイミングの判断)、③防除(多様な手法による防除の実施)です。

「総合防除」は、新たな科学的知見や先進的な防除技術も活用しながら、発生の予防に重きを置くことを基本とした考え方として推進されています。



秋田県総合防除計画が、令和6年3月に策定・公表されています(<https://www.pref.akita.lg.jp/pages/archive/4233>)。病害虫防除を実施する際は、上記や秋田県総合防除計画を参考に化学合成農薬のみに頼らない防除に努めて下さい。

【表】水稲(移植)用農薬使用基準及び適用病害虫一覧

農薬名	使用量又は希釈倍数[散布液量]	使用方法	使用時期	いもち病	イネミギワバエ	フタオビコヤガ	イネミズツウムシ	イネドロオウムシ	
アドマイヤー顆粒水和剤	500～1000倍 [0.5L/箱]	灌注	移植2日前～移植当日				○	○	
アドマイヤーCR箱粒剤	50g/箱	箱施用	移植3日前～移植当日				○	○	
稲大将箱粒剤	50g/箱	箱施用	移植3日前～移植当日				○		
稲名人箱粒剤 [スタウトバディート箱粒剤 ルーチンデュオ箱粒剤 ルーチンパンチ箱粒剤]	50g/箱	箱施用	は種前 は種時(覆土前)～移植当日		○		○	○	
	1kg/10a	側条施用	移植時	○			○	○	
オンコル粒剤5	40g/箱	箱施用	移植3日前～移植当日				○		
ガードナーフロアブル	100倍 [0.5L/箱]	灌注	移植3日前～移植当日		○		○	○	
ガゼット粒剤	40g/箱	箱施用	移植3日前～移植当日				○		
グランドオンコル粒剤	50g/箱	箱施用	移植3日前～移植当日				○		
			移植当日		○		○		
スタウトダントツ箱粒剤	1kg/10a	側条施用	移植時	○			○		
ゼロカウント粒剤	50g/箱	箱施用	移植当日		○		○	○	
ダントツ箱粒剤	25～50g/箱	箱施用	移植3日前～移植当日				○	○	
ダントツ粒剤	50g/箱	箱施用	移植3日前～移植当日				○	○	
ダントツ水溶剤	200～400倍 [0.5L/箱]	灌注	移植3日前～移植当日				○	○	
デジタルコラトップアクタラ箱粒剤	50g/箱	箱施用	移植3日前～移植当日				○	○	
デジタルミネクト箱粒剤	50g/箱	箱施用	移植3日前～移植当日		○		○	○	
	1kg/10a	側条施用	移植時	○			○		
箱大臣粒剤	50g/箱	箱施用	移植3日前～移植当日				○	○	
	1kg/10a	側条施用	移植時	○			○	○	
バス顆粒水和剤	1000倍 [0.5L/箱]	灌注	移植3日前～移植当日				○	○	
バディート箱粒剤	50g/箱	箱施用	は種前				○	○	
			は種時(覆土前)～移植当日				○	○	
			移植当日		○				
バリアード箱粒剤	25～50g/箱	箱施用	移植2日前～移植当日				○	○	
ファーストオリゼバディート粒剤	50g/箱	箱施用	は種時(覆土前)		○				
ファーストオリゼリディア粒剤	50g/箱	箱施用	は種前				○	○	
			は種時(覆土前)				○	○	
ブイゲットグランドオンコル粒剤	50g/箱	箱施用	移植3日前～移植当日		○		○	○	
ブイゲットフェルテラ粒剤	50g/箱	箱施用	移植3日前～移植当日		○				
ブーンバディート箱粒剤	1kg/10a	側条施用	移植時	○			○		
フェルテラ箱粒剤	50g/箱	箱施用	は種前				○	○	○
		箱施用	は種時(覆土前)～移植当日				○	○	○
		箱施用	移植当日		○	○			
プリンス粒剤	50g/箱	箱施用	移植3日前～移植当日		○		○	○	
プリンススピノ粒剤6	50g/箱	箱施用	移植3日前～移植当日			○			
ヘッド顆粒水和剤	500倍 [0.5L/箱]	灌注	は種時				○	○	
	1000倍 [1L/箱]						○	○	
ミネクトフォルスターSC	100倍 [0.5L/箱]	灌注	移植3日前～移植当日				○		
ミネクトプラスター顆粒水和剤	200倍 [0.5L/箱]	灌注	移植3日前～移植当日				○		
ヨーバル箱粒剤	50g/箱	箱施用	は種前				○	○	
		箱施用	は種時(覆土前)～移植当日		○		○	○	
リディア箱粒剤	50g/箱	箱施用	移植3日前～移植当日		○		○	○	
ルーチンアドスピノ箱粒剤	50g/箱	箱施用	移植3日前～移植当日		○	○			
ルーチンバリアード箱粒剤	50g/箱	箱施用	移植3日前～移植当日				○	○	
ワンリード箱粒剤08	50g/箱	箱施用	は種前				○	○	
			は種時(覆土前)～移植当日				○	○	
Dr.オリゼバディート粒剤	1kg/10a	側条施用	移植時	○			○	○	
Dr.オリゼフェルテラ粒剤	50g/箱	箱施用	移植3日前～移植当日		○				
	1kg/10a	側条施用	移植時	○			○	○	
Dr.オリゼリディア箱粒剤	1kg/10a	側条施用	移植時	○			○		